

「技術」が実現する 明るい未来

物流・自動車生産システム事業部
徳田 太郎

法学部から飛び込んだ「ガラス」の世界

私がIHIに入社したのはバブル末期の1990年。あれから20年弱、技術の力でいろいろなことがかなえられ、社会全体は大きく様変わりしました。

現在の私の担当業務は、液晶業界や半導体業界向け搬送システムの営業です。液晶パネルに使用する大型ガラスや半導体は非常にデリケートで、塵が出ないクリーンな環境で製造しなければいけません。IHIは、高度な技術によって高レベルのクリーン搬送システムを実現し、国内外の液晶パネル工場に導入しています。

私は法学部出身ですから、もともと技術に興味があったわけではありません。たまたま縁あってIHIに入社し、現在の部署に配属になりましたが、最初は「物流システムって何だろう」と思うくらい知識がありませんでした。けれども、物流システムの対象分野は広く、やりがいのある仕事をいろいろ経験することができ、大いに勉強させてもらいました。現在担当しているガラス搬送分野を含めて、物流システムを扱ううちに対象物に魅力を感じるようになり、今で

はこの仕事ができる本当によかったと思っています。

IHIがガラス搬送分野に着手したのは約15年前で、私は開発当初から関わってきたメンバの一人です。長年ガラスと付き合っているうちに、段々とガラスの魅力に取り付かれるようになりました。ガラス製造には数千年もの歴史があり、スタンドグラスやガラス器などの美しい工芸品がたくさん生み出されてきました。それらを目にしますと、なんて美しいんだろうと思うのと同時に、土からこんな美しい物を作る人間の英知とは、なんてすごいのだろう……と、感動さえ覚えます。

今、IHIで新しいガラスを発明できたら…、例えば車のフロントガラス。特殊な表面処理を施したり、微細な溝を刻んだりして、ワイパーが不要になったら喜ばれるのではないのでしょうか。

時間を縮める、次は物を縮める

これまでの技術は、主に「時間短縮」を実現してきました。物流システムやロジスティックスは、ものづくりに要する時間や、製品がお客さまに届く時間を

短くしました。入社した頃はメールも携帯電話もなかったもので、仕事の情報を伝達するときにはタイムラグがありました。でも今は、インターネットの普及で情報は素早く伝わり、仕事の能率は格段にアップしています。つまり、技術によって時間を短縮できたわけです。とはいえ、空いた時間はほかの仕事で埋まり、相変わらず忙しいのですが(笑)。

時間を縮められたのなら、次は物を縮められるんじゃないかと思います。例えば物の大きさを半分にできるシステムが生まれたら面白いでしょうね。すでに荷物の量に応じてスペース(高さ)を伸縮させるトラックはありますから、できるような気がするんですよ。IHIが総力を挙げて取り組めば、いずれ何らかの形で実現するのではないのでしょうか。

個人的には、「伸縮する家」があればいいなと思います。家族の人数やライフスタイルの変遷によって、大きさを変えられる家。こんなことを言うと「夢物語だ」と言われそうですが、携帯電話が登場するなんて30年前はほとんどの人が思わなかったでしょう？

同じように、今の技術ではありえないことでも、未来の世界では当たり前になるかもしれませんよね。

技術の進歩、その先に

今後、技術がますます進歩して、人の手を煩わせることがどんどん少なくなるでしょう。そうすると、その分人々はもっと自然を求めようになると思います。私は趣味のゴルフを通じて自然のなかに身を置くようにしています。ハードな仕事とのバランスをとるために必要な、ホッとする時間です。私が、ガラスのような無機質なものに魅力を感じるのも、自然の土からできていることをどこかで感じ取っているのかもしれません。

ちなみにゴルフ歴は30年で、初ラウンドは中学生の頃です。このときのスコアがハーフ48と抜群でした。なんと今のスコアと変わらないんですよ。これが私の唯一の自慢です(笑)

技術が高度に進歩した社会で、人は自然に帰ることを無意識に求めているのだと思います。これからも人々が求める自然を守っていかなければいけないと思います。100年先の未来まで、IHIがこの課題にこたえていくことを願っています。